

令和8年度シラバス（理科）

学番22 県立阿賀黎明高等学校

教科（科目）	理科（科学と人間生活）	単位数	2単位	学年（学類）	3学年（教養）
使用教科書	高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社）				
副教材等	改訂版 ネオバルノート 科学と人間生活（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。</p> <p>②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。</p> <p>③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①あらゆる進路に対応できるカリキュラムを設定します。</p> <p>②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。</p> <p>③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。</p> <p>④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組みます。</p>

2 学習目標

<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身につけようとする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>
--

3 指導計画

月	単元	教材又は項目	学習活動（指導内容）	評価方法	時間
4	序章	科学技術の発展	人間生活の歴史	定期考査 授業への取り組み	2
		第1節 材料とその利用 第2節 衣料と食品	中学校でも学習した元素記号、化学式を思いだし、再認識する。 金属やプラスチックなど身のまわりの物質の種類、性質、用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解する。 身のまわりの金属の特徴を調べ共有する。 身のまわりの衣料、食品について関心を向ける。 科学クイズ作りを通して知識を深め、他者と知識を共有する。	小テスト 課題 科学ニュース調べ	
5	第I章 物				10
6	第II章 生	第1節 ヒトの生命現象 第2節 微生物とその利用	ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解する。 自分の調べた内容を共有し合う。 盲斑の確認、残像の観察、錯視調べ。	定期考査 授業への取り組み 提出物 課題 科学ニュース調べ	15
7					
8	第III章 熱や	第1節 熱の性質とその利用 第2節 光の性質とその利用	熱と温度、物質の状態変化の関係を確認する。 光の性質、特徴を学び身のまわりの現象と科学との結びつけを行う。 光の演示実験の観察 光に関する物理現象を調べ共有する。 Java実験室のシミュレーションによって光と色の関係を確認する。	定期考査 授業への取り組み 提出物 課題 科学ニュース調べ	14
9					
10	第IV章 地球や宇宙の	第1節 自然景観と自然災害	日本列島とプレートについて理解し、それによって形作られる地形について関心を持つ。 地震や火山などの仕組みや及ぼす影響を理解する。 水による自然景観や災害を理解する。 防災意識を高める。	定期考査 授業への取り組み 提出物 課題 科学ニュース調べ	14
11					
12		第2章 太陽と地球	気象について理解する。 日本の四季と自然災害について理解する。 大気の動きや太陽からのエネルギーについて理解し、身のまわりとの関わりを調べる。	定期考査 授業への取り組み 提出物 課題 科学ニュース調べ	
1～3					15

「1単位時間は50分」

70

4 評価の観点の趣旨

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	身近な事例と関連付け、科学的な考え方や正しい知識を身に付けている。	論理的思考力に基づき、科学的アプローチを通じて物事を的確に分析する力や課題を解決していく力を身に付けている。	他者との協働を通して社会が抱える課題を主体的に探究、解決しようとしている。

5 評価方法

観点	(1) 知識・技能 (40%)	(2) 思考・判断・表現 (30%)	(3) 主体的に学習に取り組む態度 (30%)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストや定期考査の評価</li> <li>実験、観察の操作とレポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査・小テストでの評価</li> <li>調べ学習の発表</li> <li>身の回りの科学現象について考え、調べ、他者と共有する。</li> <li>科学ニュース調べ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学ニュース調べ</li> <li>実験、観察での取り組み</li> <li>課題・レポートの取り組み</li> <li>発表に向けた取り組み</li> </ul>

6 担当者からの一言

科学と日常生活との結びつきを理解しましょう。科学的な考え方をしっかりと身につけましょう。科学について調べ、その知識を仲間と共有し、その知識や考え方などを一層深めていきましょう。